

## ●浜の話題

- 2月16日、茅ヶ崎市漁協で定置網や刺網で漁獲される未利用・低利用魚の有効活用を目的とした「茅ヶ崎地魚倶楽部」の初会合が開催されました。同倶楽部は、定置網（川長三晃丸）、刺網漁業者（浜磯丸）、漁協、地元の飲食・加工業者、茅ヶ崎市農業水産課で構成されています。当日は、サメの燻製製品やフィッシュバーガー等、他地区の未利用資源の有効活用事例について普及員が説明し、茅ヶ崎沖で獲れる魚の中でどれを製品化するか協議した結果、サメやエイを使った地魚バーガーや総菜メニュー等の開発に取り組んで行くことになりました。



「茅ヶ崎地魚倶楽部」の初会合の様子

- 2月16日に、杉山会長を始めとしたしらす協議会の役員8名は、県水産課、農政課ブランド推進グループ、JA神奈川中央会を表敬訪問しました。かながわブランドの事務局である中央会には、かながわブランド販売促進支援事業を活用したレシピ集やPRのぼりの作成の支援について要望したそうです。
- 2月19日、平塚市漁協は底質改善や生物調査等を目的とする海底耕耘を実施しました。今回は、2月9日に視察した藤沢市漁協組合長の助言を元にハマグリ分布状況の調査も兼ねており、65個（11kg）のチョウセンハマグリが採れ、大きいものは殻長12cmもありました。今回の調査結果に浜の漁業者も活気付くと共に、同漁協では3年前より（公財）相模湾水産振興事業団の支援を受けてチョウセンハマグリ種苗を放流していることから、新たな対象種としての定着を図るため、チョウセンハマグリ増殖に向けこれまで以上に取り組んで行くことになりました。



調査で採れたチョウセンハマグリ 大きいものは12cmもある立派なハマグリでした。

- 2月22日、小田原市漁協刺網部会の総会が開催されました。総会では今年度の事業報告と来年度の事業計画が提示され、役員改選も行われました。平成30年度もこれまでと同じくヒラメ種苗放流を実施すること、資源保護のために4月以降に漁獲される小型のアンコウを再放流することを議決しました。また、未利用魚活用の一環として、現在ほとんど市場価値のないホシエイの活用に、平成30年度から取り組むこととしました。
- 2月24日、横浜市漁協柴支所は「柴漁港 ホタテ浜焼き会」を開催しました。同支所ではホタテガイの養殖に取り組んでおり、横浜のホタテガイをPRするイベントです。ホタテガイ直売、炭火による浜焼きコーナー、小柴のどんぶり屋の特別メニュー、お子様を対象としたホタテガイ釣り体験等に多くの来場者があり、皆さん楽しんでいました。



ホタテガイ釣り体験

- 2月25日、横浜市漁協金沢支所は「金沢漁港 海産物フェスタ」を開催しました。生ワカメつかみどり、生ノリむしり、生ノリみそ汁配布、八景島周辺の遊覧船、官公庁船の見学、地元水産物の直売等の様々なイベントがありました。多くの来場者がイベントを楽しんで、生ワカメ、ノリ、鮮魚等の水産物は売り切れ御免となる大盛況でした。



生ワカメつかみどり

## ●お知らせ

- 鎌倉漁協が定期的で開催している朝市が、4月1日の開催で100回目を迎えます。これを記念して、当日は各種イベントを計画しているそうです。会場は鎌倉パークホテルの駐車場で、開始時刻は午前10時とのことです。